

会員紹介 フラメンコサークル

みなさん、こんにちは！ フラメンコサークルです。
私たちは八丈島で20年程活動を続けてきたサークルです。
普段は、夏まつりや文化フェスティバルなどに出演しています。
最初は、教えてくれる先生がいましたが、離島されてからはメンバ

ーでアイデアを出し合ったり、練習方法を工夫したりしながら活動を続けてきました。

私たちの長所は、なんと言ってもチームワークの良さです！！ メンバーそれぞれの得意分野を活かして舞台を作り上げています。先生がいない今は、本場のフラメンコからは遠ざかっているかもしれませんが、ネット動画等を参考にしながら八丈島の芸能としてのフラメンコを踊りたいと考え、夢であったギターを生演奏との共演や八丈島の代表的な伝統芸能である八丈太鼓との共演も実現することができました。

これらのことは、各アーティストの方々の多大なるご理解とご協力の元を実現できたことです。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

私たちには夢があります！

それは島外の舞台での八丈太鼓との共演の実現です。

フラメンコの靴音と八丈太鼓のリズムが重なり合ったとき、

私たちは大きな感動と共に素晴らしい可能性を感じました。

この踊りを多くの人に観ていただきたい！ さらにもしこ

にギターを生演奏がかわってくれたら？ など夢がどんどん大きくなっています。

その夢を叶えるために日々練習を重ねています。

コロナ禍で以前のようにはいきませんが、今できることを全力で頑張っています。そして、みんなで楽しむことも大事にしています。そんな最高の仲間と作り上げる舞台をぜひ皆さまに観に来ていただきたいです。

今年はイベントが無事に開催できることを祈っています。

フラメンコサークルをこれからもどうぞよろしくお願い致します！



5月7月のイベント情報

※詳細は協会ホームページ及び「FAX・メール」を参照ください。
(協会主催・後援 加盟団体会員・出演など)

●5月8日(日) あびの実映画会 「漁港の肉子ちゃん」

14:00と19:00から、おじゃれホールにて

チケット料金: 会員500円、会員外1000円

●5月28日(土) 第11回八丈島文化協会総会

商工会研修室 午後6時～8時

●5月8日(日) ウクライナチャリティコンサート 町役場ホール等

●第16回八丈島歴史セミナー 受講料200円 定員30名(先着順)

午後1時30分～3時30分 商工会研修室(第1～第4回)

・第1回 5月28日(土) 源為朝伝説を追って(茂手木 清)

・第2回 6月4日(土) 和歌山サンマ漁船の漂着(林 薫)

・第3回 6月11日(土) 短歌と俳句で訪ねる「八丈八景」(伊藤 宏)

・第4回 6月18日(土) 中学陸上競技記録会の歴史(佐々木 究)

・第5回 6月25日(土) 野外学習『為朝伝説を訪ねて』

●八丈小島自然体験 7月23日(土)か24日(日) 自然っ子クラブ会員



八丈島文化協会 会報 第39号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2022年5月6日 発行

2022(令和4)年度の始まりにあたって

八丈島文化協会 会長 山下 和彦

八丈島も、椎の木の濃い黄緑色が山を彩り、藤の花がきれいにしだれて咲く季節になってきました。突発的なロシアによるウクライナへの侵略戦争が起こり、ニュースは連日そのことであふれています。全く驚くべき事態ですが、悲惨な戦禍のニュースを見るにつけ、早く戦争が終わることを祈らずにはいられません。コロナ禍は、相変わらず続いています。患者数は多いままで安定した(若干減少しつつ)状態になってきており、一時のような危機感あふれる状況ではなくなってきました。観光客も見られるようになりました。しかし、なかなか収まりそうもありません。手指の消毒、マスク着用の日常が定着している今日この頃です。おじゃれホールや公民館なども使用出来るようになりました。文化協会の活動を含め、多くの団体の活動も、いろいろの制限の中でご苦労なさっていると思いますが、徐々に広がりつつあります。

さて、文化協会の総会ですが、今年は久しぶりに紙上でなく実際に顔をあわせる形で5月28日(土)に開催することにしました。2020・2021年度と2年連続で紙上での開催、報告になっていましたが、コロナワクチンの接種も進み、重症化リスクも減少しているということで、今年度こそはいろいろのことが出来ることを期待して行うことにしたものです。

総会は、2021年度の活動を総括し、2022年度の計画を意思統一する場です。2021年度の文化協会行事としては、島民大学講座はテレワークも使い2回実施でき、Jazzフェスは内容・時期を変更して開催、文化フェスティバルは作品展部門のみ実施、あびの実公演や小島上陸体験は実施、中止になったのは芸能文化祭とあびの実映画会でした。2022年度は、活動が広がり充実することを願っています。総会は、協会の活動を活発にするために、加盟団体は代表者だけでなく+αで出席していただき、ご意見をいただけたらと思っています。



5月28日誕生花 みつばつつじ 花言葉: 平和 「誕生花366日写真集」参考



ベートーヴェンの生涯に触れ作品を味わう

～ 第81回八丈島民大学講座 ～



コロナ禍のため延期をかさねた第81回八丈島民大学講座（主催・八丈島文化協会/後援・八丈町教育委員会、東京都立大学）が、フリージアの香りたけよう3月26日（土）と27日（日）の午後、八丈町多目的ホールおじゃれで行われました。講師はテノール歌手の湯川晃先生とピアニスト湯川涼子先生。2018年12月に行われた「ちょんこめ30周年記念～共に生きる未来～歌おう！ 第九コンサート」で指導・指揮・伴奏を務めた縁でお願いしました。二人の息の合ったお話と演奏で聴衆に深い感動を届けていただきました。

楽聖の命日でもあった第1日のテーマは、「ベートーヴェンの生きた時代とその生涯」。19世紀初頭のウィーンで、社会的な制約にあらがいがながら人生の危機を乗り越え、作曲家として大きく育っていく過程をたどりました。（演奏曲目：アデライーデ、ピアノソナタ第14番「月光」他）第2日目は「障がいと共に生きたベートーヴェン」というテーマで、聴覚障がい者としてのベートーヴェンと第九（交響曲第九番）について、八丈島で出会った第五パートのある第九演奏会の感動的な体験から、第九が社会のノーマライゼーションに果たす意義についてお話がありました。（演奏曲目：愛されない男の歌、ピアノソナタ第8番「悲愴」他）会場での受講者は2日間で延べ122人。この講座は東京都立大学の協力により「海を越えた島民大学講座」としてオンラインで配信され、島内外で延べ57人が受講しました。

【湯川晃先生の話】

ご来場いただいた皆さん、ON LINE で参加の皆さんに喜んで頂けたのは何よりうれしいです。また、2018年の第9公演に携わってくださった島の皆さんもご来場頂けていたことにびっくりしました。島の皆さんにとってもあの第9は記憶に残っているのかなあと思いました。私たちが狙っていた、音楽室の壁にある肖像画から人間ベートーヴェンをお伝えできたこと、同じ人間で生活をしていたんだということがお伝えできたのでうれしいです。ベートーヴェンが身近になり、他の作品に興味を持って頂けることが何よりも大切だと思っています。このような貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。また、このような機会があることを願っております。

【受講者の声】

○年表を見ながら、エピソードをまじえながらの説明が分かり易く、面白かった。「ハイリンゲン・シュタットの遺書」の朗読は、ベートーヴェンの性格が感じられてとても良かった。障害の苦しみ、内在する音楽への情熱とともに、他者からの見られ方も気にして、繊細な面を感じました（男性・60歳代）
○素晴らしいお話と演奏をありがとうございます。感動いたしました。（女性・70歳代）
○声楽、美声です。ピアノ演奏、すごい。内容の構成、生誕250年よせて、よく練られています。ノーマライゼーション、第5パート、「悲愴」、第九番構想、人類の宝へと、視野が広がりました。一方の現実、同時進行している殺し合いとの落差もあり、複雑な気持です。（ON LINE 男性・70歳代）



第32回八丈島文化フェスティバル報告

～ 作品展部門のみ開催 舞台部門は中止に ～

第33回は10月予定

第32回八丈島文化フェスティバル作品展部門が、1月22日・23日両日、町民ギャラリーで行われ、2日間で200人を超える方にご覧いただきました。来場者からは「どの作品も素材の生かし方や描写が素晴らしいと思いました」「世の中が殺伐としているからこそ、鑑賞で心が洗われます」「みなさんの創作意欲が伝わり元気がもらえる展示でした」などの感想が寄せられました。



木下恵美 ～冬は必ず春となる～
コロナウイルス収束を願って～



東海林ミモザ
刺繍絵『八丈富士とフリージア畑』



湊直子
～花紺～ 着物リメイク



大賀郷中学校美術部 アートパネル、自由制作など61点を出品

舞台部門は1月23日に開催予定でしたが、島内で新型コロナウイルス感染が確認されたため、中止となりました。2年ぶりの開催にむけて練習に励んできた出演団体のみなさまのことを考えると申し訳なく、実行委員会も本番にむけて数か月かけて準備をすすめてきており、本当に無念でした。しかし、フェスの規模や影響を考え、開催を断念せざるを得ませんでした。

2022年度は、第33回文化フェスティバル舞台部門を10月10日、作品展部門を10月22・23両日に開催予定です。4月現在、新型コロナウイルスは依然収束していませんが、状況は変わってきており、今回は、施設利用が休止にならない限りは実施致します。島で文化活動を行っているみなさまとともに再び両部門ともに実施できることを心より願っています。詳細につきましては後日お知らせいたします。みなさまのご応募をお待ちしています。

八丈島文化フェスティバル事務局・山下久美子